別紙４

● 世界の主な火山活動

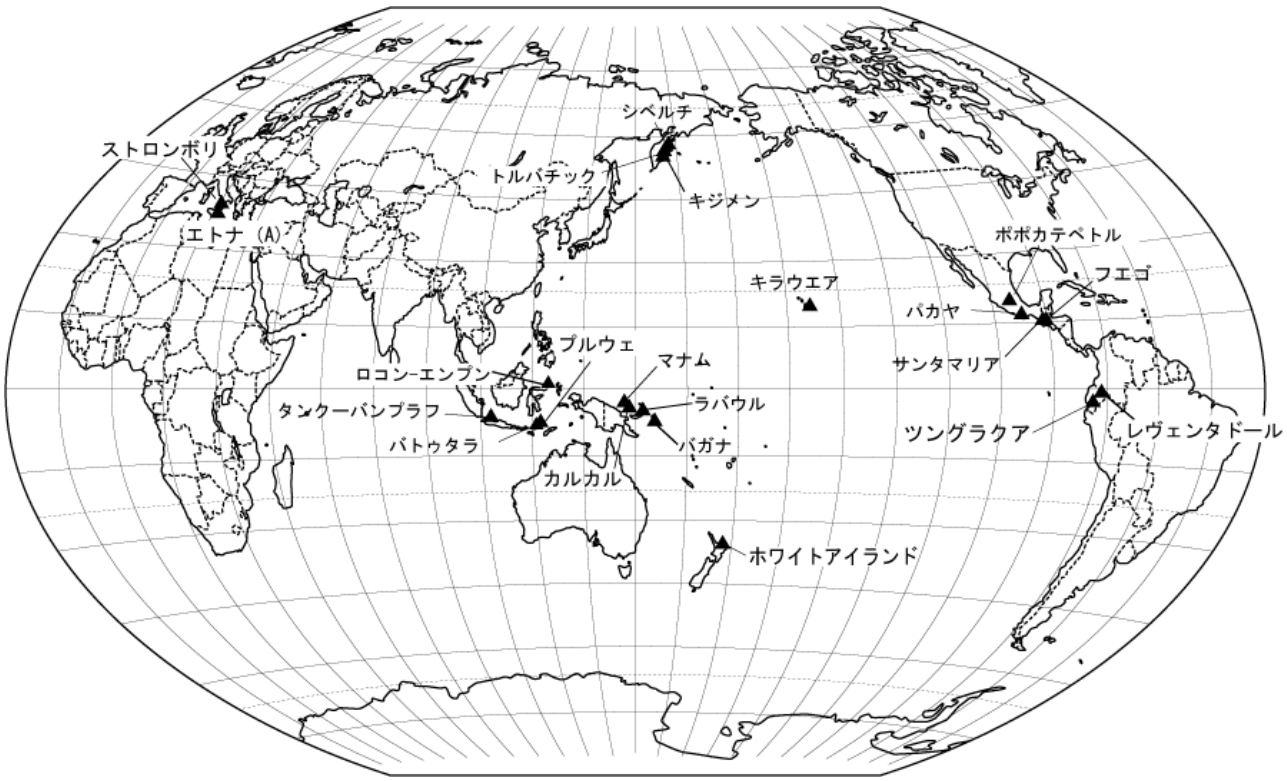
平成 25 年（2013 年）３月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

エトナ（イタリア）（図中Ａ）

５～６日にかけて活発な噴火活動があった。５日 18 時 54 分に爆発的噴火が発生し、赤熱した火山岩塊が火口縁上数十ｍまで上がった。爆発的噴火は、最初 15～20 分間隔で発生していたが、徐々に頻度を増していった。夜になると、活動は徐々に活発化し、火山性微動の振幅も増大した。溶岩流も発生し、南方向と南東方向へ流れた。別の火口でも６日 00 時 12 分に溶岩流が発生し、数分後には割れ目火口が形成され、溶岩噴泉が連続的に発生するようになり、火口縁上 200～300ｍまで上がった。溶岩噴泉は 30 分継続し、火山砕屑物を大量に含んだ噴煙が高さ数 km まで上がり北東へ流れた。01 時過ぎに爆発的噴火は収まり、ごく弱いストロンボリ式噴火へと移行した。

ストロンボリ式噴火は 14 日まで少ない状態で経過していたが、15 日午後からは再び火山性微動が増大し、火映や山麓では爆発音も聞こえた。16 日昼過ぎに、活動が急激に強まり始め、高温の溶岩が頻繁に噴出し、火口縁上 150ｍまで上がった。18 時頃には火口南東側の裂け目から溶岩流が発生した。15 分後、爆発的噴火はさらに活発となり、多量の火山砕屑物が放出され南東方向へ流れた。18 時 30 分からの 15 分間で、噴火活動は爆発的噴火から溶岩噴泉へと移行し、溶岩噴泉の高さは火口から 600～800ｍまで上がった。噴石は最大で２km以上飛散し、溶岩噴泉は約 15 km離れた山麓からも確認することができた。溶岩噴泉は 19 時 04 分頃収まり始めたが、19 時 10 分に活動は爆発的噴火へと移行した。爆発的噴火は散発的に発生したが徐々に収まっていった。この噴火活動で、火口から南東方向へは大量のスコリアが降下し、多くの車のフロントガラスや天窓、屋根を破壊した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館のＧＶＰ（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）



気象庁作成